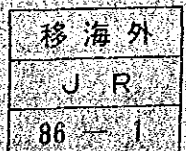
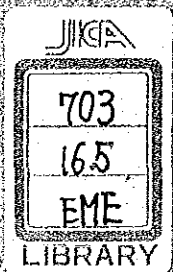


ブラジルにおける日本語学校 巡回指導報告書

1986年 2 月

国際協力事業団
移住事業部



業務資料No.751

ブラジルにおける日本語学校
巡回指導報告書

1986年2月

国際協力事業団
移住事業部

JICA LIBRARY



1054495[5]

国際協力事業団	
受入 月日 '86. 6. 26	703
登録No. 12816	16.5
	EME

は し が き

移住者子弟教育対策の一環として、伯国においては、昭和53年より、日本語指導教師を短期派遣し、現地日本語学校の指導にあたってきた。

本報告書は、現地の要請をうけ、昭和58年度に引き続き昭和59年に派遣教師を北伯地方・南伯地方それぞれに派遣し、集中的に指導を行った結果をとりまとめたものである。

巡回指導の実施にあたっては、外務省、玉川大学、在外公館、訪問国の各日系教育関係諸団体、事業団在外支部、事業所から多大の協力を得たことに対し、深謝の意を表したい。

この報告が海外日系社会における児童の今後の日本教育問題について、内外関係者各位のお役に立てば幸いである。

昭和61年2月10日

移住事業部長

目 次

I 日 程	1
1. 南伯地方巡回指導日程	1
2. 北伯地方巡回指導日程	4
II 各地の日本語学校巡回指導について	1 1
1. 南 伯 (正善達三)	1 1
(1) はじめに	1 1
(2) 目 的	1 1
(3) 南伯各地区日本語校の日本語教育の現況と改善点	1 2
(4) ポリビア・サンタクルス日本語指導教師打合わせ会議	3 6
2. 北 伯 (清水武二)	3 8
(1) 北伯各地区日本語校の日本語教育の現況と改善点	3 8
(2) 日本語教材の利用について	4 5

I 日 程

1. 南伯地方巡回指導日程

- 1月10日(木) 成田20:35発 JL 064
- 11日(金) サンパウロ 10:00着
国際協力事業団サンパウロ支部打合せ。
- 12日(土) サンパウロ支部にて、巡回指導の資料作製・準備
- 13日(日) ブラジル美術展(ビエナル会館)見学。児童劇「いろいろの障害をのりこえて」観賞
- 14日(月) 第6回日語教師後継者養成研修会、主催・日伯文化連盟、講義、実習指導
- 15日(火) 移動、サンパウロ→ドラードス
- 16日(水) ドラードス日語校訪問。(第1日)合同研修会。
- 17日(木) ドラードス日語校、訪問(第2日)合同研修会。
- 18日(金) 共栄日語校、訪問。(第1日)合同研修会。
- 19日(土) 共栄日語校、訪問(第2日)合同研修会。
- 20日(日) 記録整理
- 21日(月) 移動、ドラードス→カンポグランデ
- 22日(火) カンポグランデ地区日語教師研修会、於・学生寮
- 23日(水) 移動、カンポグランデ→ロンドリーナ
- 24日(木) ロンドリーナ地区日語教師研修会(第1日)、於・西本願寺ルンビニ学園・
- 25日(金) ロンドリーナ地区日語教師研修会。(第2日)めぐみ学園、訪問。
- 26日(土) 移動、ロンドリーナ→アサイ富士学園、訪問。アサイ地区日語教師研修会
(第1日)
- 27日(日) 同上研修会(第2日)
- 28日(月) 移動、アサイ→マリンガ。マリンガ地区日語教師研修会(第1日)於・マ
リンガ文協会館。
- 29日(火) 同上研修会(第2日)
移動、マリンガ→サンパウロ
- 30日(水) 第27回全伯日語教職員講習会(第1日)事業団派遣本邦研修OB会。
- 31日(木) 午前、総領事公邸、訪問。午後、同上講習会(第2日)講演
- 2月 1日(金) 同上講習会(第3日)
- 2日(土) 同上講習会(第4日)
- 3日(日) 同上講習会(第5日)

- 4日(月) 同上講習会(第6日)講演
- 5日(火) 移動、サンパウロ→レジストロ
- 6日(水) レジストロ市内見学。
- 7日(木) レジストロ日本語校、訪問。地区懇談会。
- 8日(金) 移動、レジストロ→クリチーバ
事業団出張所、訪問。
- 9日(土) クリチーバ日伯文化援護協会・日本語講座、訪問。地区日本語教師研修会
(第1日)
- 10日(日) 同上研修会(第2日)
- 11日(月) カストロ奨学舎、ボンタ・グロッサ日本語校、訪問。父母懇談会。
- 12日(火) ひまわり幼稚園、クリチーバ日本語校、訪問。
移動、クリチーバ→ポルトアレグレ
領事館、事業団ポルトアレグレ支部、訪問。
- 13日(水) カシアス・ドスール日本語校、訪問。
- 14日(木) 移動、カシアス・ドスール→クリチバーノス
- 15日(金) 移動、クリチバーノス→ラーモス
ラーモス日本語校、訪問。父母懇談会。
移動、ラーモス→ラージェス
- 16日(土) 移動、ラージェス→ポルトアレグレ
- 17日(日) 記録整理。
- 18日(月) イボチ日本語校、訪問。父母懇談会。
- 19日(火) イタパン日本語校、訪問。父母懇談会。
- 20日(水) アンブラ日本語教室、訪問。地区研修会。
- 21日(木) ポルトアレグレ地区日本語教師研修会(第1日)於・援護協会。
- 22日(金) 同上研修会(第2日)
- 23日(土) 移動、ポルトアレグレ→サンパウロ。
- 24日(日) 記録整理。
- 25日(月) 移動、サンパウロ→アラサツーバ。
アラサツーバ日本語校、アラサツーバ中央校、至誠日本語校、訪問。
- 26日(火) ノロエステ地区日本語教師研修会(第1日)於・文協会館。
- 27日(水) 同上研修会(第2日)
- 28日(木) 同上研修会(第3日)
- 3月 1日(金) 移動、アラサツーバ→サンパウロ。
- 2日(土) 記録整理。

- 3日(日) 児童劇「ピンパンとジュリエッタ」、現代劇「ラジオ2000年」
- 4日(月) モジ・スザノ地区日語教師研修会(第1日)。
- 5日(火) 同上研修(第2日)
- 6日(水) サントアンドレ日語校、学習館、訪問。地区研修会
- 7日(木) アニャンゲーラ日語校、訪問。懇談会。
- 8日(金) 日語教師代表者意見交換会。(サンパウロ文協会館)
- 9日(土) 都市型カリキュラム検討(サンパウロ国際協力事業団)
- 10日(日) 記録整理。
- 11日(月) イビウナ奨学舎・訪問。
- 12日(火) 花市場見学。報告会及び歓送会(文協会館)
- 13日(水) 整理。
- 14日(木) ボリビアへ移動しようとしたが、現地状況不安のため中止。
- 15日(金) サントス見学。
- 16日(土) 移動、サンパウロ10:30発→ボリヴィア・サンタクルス13:00着
 全体研修会(於・第一オキナワ日語校)、講師・日語指導教師、ボリヴィア
 ・サンタクルス支部(梅垣義巳)、パラグアイ・アスンシオン支部(山中忠
 男)アルゼンティン・ブエノスアイレス支部(西川 猛)、ドミニカ・サン
 ト・ドミンゴ支部(橋本貞夫)、ブラジル短期派遣(正善達三、清水武
 二)。
 第二オキナワ日語校、サンタクルス日語校、訪問。
- 17日(日) 砂の丘見学。事前打合せ。
- 18日(月) 奥地農村型カリキュラム検討会(第1日)
- 19日(火) 同上検討会(第2日)
- 20日(水) 同上検討会(第3日)
- 21日(木) 整理。
- 22日(金) 整理。
- 23日(土) サンタクルス空港→リマ空港乗りかえ
- 24日(日) リマ空港発
- 25日(月) 成田空港着

2. 北伯地方巡回指導日程

- 1月10日(木) 成田発
- 11日(金) サンパウロ支部にて日程打合せ
- 12日(土) JICA事務所で必要書類コピー
- 13日(日) サルバドールへ
ホテルで日程打合せ
- 14日(月) 10時 ホテル発 J, Kへ、
午後2時、バイヤ地区、日本語教師研修会、開講式
作文審査
絵画展審査及び観賞指導
児童画の指導について 児童の画を見ながら指導
賞状作成
作文並びに絵画、年令別三位まで
- 15日(火) 午前 9時～12時 各校実績報告
要覧記入
午後 2時～4時 講演
日本語教育の進め
初級の指導法について
・ 範読の重要性・音声から文字へ
・ 答えやすい質問を
- 16日(水) 午前 折紙 三角折、家折、鶴折、舟折、箱折、動く折紙他
午後 書道 ひらかなの書き方練習
漢字は講義だけ
- 17日(木) 午前 学芸会の持ち方 児童文化的手法について
劇・人形劇、ペープサート、影絵、よびかけ。(ありとはと)
午後 歌唱、器楽の指導
輪唱、音楽劇、大きなくりの木の下で、かっこう、スケーターワ
ルツ、山の音楽家
- 1月18日(金) 午前 J, K生徒の演奏
ゲーム指導。
ハナハナ、とんだとんだ、命令ゲーム、楽隊あそび
閉講式
午後 お別れパーティ

- サルバドールへ
- 19日(土) サルバドール見学
- 20日(日) サルバドールからレンシーフェへ移動
- 21日(月) レンシーフェ総領事館表敬訪問
学生会館訪問。レンシーフェ日語校、坂口先生(日本人会長)と懇談
- 22日(火) ブラジル学校見学。校長夫人と懇談(教科書執筆者)
レンシーフェからベレンへ移動
午後9時発の予定が遅れて午前10時過ぎになる。
- 23日(水) 午前 5時ベレン着
10時 領事館表敬訪問
午後 歓迎会出席。
- 24日(木) 午前 ベレン支部で教材コピー
午後 トメアスへ移動
12時ホテルを出て、1時発のバスへ乗る。途中故障してトメアス
着 午後10時。歓迎会。
- 25日(金) 第二トメアス校へ
午前 山根先生授業参観
清水授業
午後 父母懇談会
各家庭での日語の状態を聞く。
日本語教育の重要性と振興策について話す。
夜 歓迎会 南部さん宅、20名出席。
南部さん宅宿泊。
- 26日(土) 午前 第二トメアス校 山根先生授業
清水授業 書道、ゲーム
- 1月26日(土) 午後 INATAM見学。山根先生宅宿泊
- 27日(日) 第一トメアス校へ
午前 教師研修会(児童文化的手法)日本語指導法について
午後 書道研修会 かなの指導
- 28日(月) 午前 プレウ分校。清水授業
父母懇談会
午後 第一トメアス地区、父母懇談会。
夜 お別れパーティー
- 29日(火) トメアスからベレンへ移動。

- 5時起床。 6時出発。午後1時過ぎベレン着。
 支部へ寄りあいさつ。
 午後 増山、丸岡、松崎、藤野氏と日程打合せ。
- 30日(水) 午前 支部事務所で教材コピー
 午後 日伯協会で機材状況視察。
- 31日(木) カスタニヤルへ、7時半発、9時カスタニヤル着。
 午前 読解指導について講義
 午後 興味を持たせ効果的な指導について
 (児童文化的手法)
- 2月 1日(金) カスタニヤル日語校。
 午前 書道実習、漢字、ひらがな。参加教師15人。
 午後 父母懇談会。出席者、父母38人、教師15人。
- 2日(土) 午前 10時 ベレン日伯協会で教育懇談会。
 出席者、甲斐領事、JAMIC飯島、外崎、星日本人学校長、小山
 パラ大学教授、日伯理事、他。
- 3日(日) アバエテツバ訪問。朝5時半起床、舟とバスでアバエテツバへ
 午前 アバエテツバ日語校。初級、中級クラス授業参観。清水指導
 午後 〃 上級クラス授業参観。清水指導。
 夜 8時 父母懇談会。散会、10時。アバエテツバ泊。
- 4日(月) アバエテツバ校
 午前 教師研修会
 午後 アルフランス見学。ベレンへ移動。
- 5日(火) 午前 JAMIC事務所、教材コピー
 午後 日伯協会、事務連絡
- 6日(水) 5時起床、6時半出発、7:15発飛行機でサンタレンへ。
 サンタレン着 8時半。
 午前 日程打合せ。
 午後 父母懇談会。
- 7日(木) サンタレン地区教師研修会。
 午前 日本人会役員。出席、サンタレン日語校教師、父母代表、モンテア
 レグレ日本人会長、教師。
 午後 授業、清水指導。1時30~2時30。
 サンタレンよりベレンへ移動。4:45。
- 8日(金) 午前 JAMIC事務所へ、事務連絡。

- 午後 2 : 0 0 日本語学校経営者懇談会。
- 9日(土) ベレン地区研修会。
午前 講 演
午後 書道研修
- 10日(日) 合同研修会、第1日
増山氏授業参観後食中毒の為、援協病院へ入院。
- 11日(月) 合同研修会、第2日
講演 研究授業について
指導等について
懇談 送別
午後 総領事公邸懇談会
- 12日(火) 午前 トメアスの先生方と懇談。
午後 座談会。
- 13日(水) 午前 業務報告、ベレン支部長に事務連絡。
- 14日(木) ベレンからマナウスへ移動。
午前 支部挨拶。
午後 4 : 3 0 ホテル発。
ベレン発、7 : 0 0
マナウス着、9 : 0 0。現地時刻8 : 0 0。
夜 歓迎会。野々垣総領事、主代事務所長、他出席。
- 15日(金) マナウス地区研修会。
西アマゾンヤ日伯協会、日本語教室。
午後2時~4時半。講義「聞く、話す、読む、書く」について。
- 16日(土) マナウス日語校。授業参観
清水授業、文型指導、書写。
- 17日(日) 講演会 日本の現状(校内暴力、筑波万博等)
日語教育の重要性、振興策。
夜 7 : 0 0夕食会。
- 18日(月) }
19日(火) } マナウス市内見学
20日(水) }
- 21日(木) マナウスよりリオデジャネイロへ移動。
- 22日(金) リオ、ミナス、ブラジルヤ合同研修会。第1日 日新学寮
午前 開講式 参加者50名以上。

出席者名、伊藤総領事、野和田支部長、他出席。

午後 2:00~2:30 講義 平島リオ連邦大学客員教授

① 2:30~3:30 講義 日本語教育について、清水

② 4:00~5:30 指導法について

夕 食

③ 7:00~10:00 懇談会及び質疑。

10:00~ 揮毫

23日(土) リオ、ミナス、ブラジリア合同研修会 第2日

午前④ 7:00~9:00 講義 日本語教育の重要性。

9:10 閉講式。

リオからサンパウロへ移動。

24日(日)

2月25日(月) カンピーナス研修会。出席者、15名。

午前 開講式。各校紹介。

午後 講義

歓迎夕食会

26日(水) カンピーナス研修会。

午前 講義 指導法。

午後 漢字、かなの書き方、実習。

27日(木) ウナキャンプ、東山農園見学。

カンピーナスからサンパウロへ。

28日(金) JAMIC事務所へあいさつ。教材コピー。

3月 1日(土) ジャカレ メトロとバスでジャカレへ。

ジャカレ地区研修会。

午前 10:30~12:00 講 演。

午後 2:00~ 3:00 授 業。

3:00~ 4:20 折紙指導。

質疑応答。

出席者 20名

サンパウロへ帰る。

2日(土) 文書整理。

3日(日)

4日(月) 事務連絡。JAMIC事務所。

都市型カリキュラム検討。

- 5日(火) 松柏学園訪問。
幼稚園及び初級授業参観。
- 6日(水) 正善氏、柳森氏同行。
10時 サンベルナンド日語校訪問。 生徒数220人。
11時 サントアンドレ学習館訪問。 生徒数500人。
幼稚園児120人。
教師 18人。
午後 懇談会。2:00~4:10。
- 3月7日(木) 正善、柳森氏。
アニャンゲーラ日語校訪問。
- 8日(金) 日語教師意見交換会。文協会館。10:00~3:30
- 9日(土) JAMIC事務所、カリキュラム検討。橋本。
9:00~4:00
- 10日(日) カリキュラム検討。
- 11日(月) イビウナ奨学館訪問。正善氏、柳森氏同行。
授業参観。
懇談会。
- 12日(火) 報告会・歓送会・文協会館・出席者。
- 13日(水) ボリビアへ出発準備。
- 14日(木) ボリビアへ出発予定のところ政情不安のため出発を2日延期する。
- 15日(金) サントス見学。ボリビア政情不安の為様子を見る。
帰国準備。
- 16日(土) サンパウロよりボリビア サンタクルスへ。
サンパウロ発 10:30
サンタクルス着 1:00 第一オキナワ日語校へ。
サンタクルス日語校研修会へ出席。
清水講義、約30分。日本語教育について及び指導法。
正善、梅垣、橋本、各氏の講義。
第二オキナワ日語校視察。
- 17日(日) カリキュラム検討事前打合せ会。 於ホテル。
- 18日(月) カリキュラム検討委員会 午前 全体計画。
(農村型) 午後 教科書、ことばの本、かきかた
- 19日(火) カリキュラム検討委員会。
午前 各分担に分かれて

午後 教科書 1年、2年、ことばの本。
かきかた (清水)

3月20日 (水) カリキュラム検討委員会。
全体会議 午前 教科書、かきかた。
午後 ことばの本。
学生寮 集中管理機器等について討議。

21日 (木) 橋本氏ドミニカへ出発。
帰国準備。

22日 (金) 西川夫妻、山中夫妻、任地へ帰る。

23日 (土) 帰国 5:00起床、6:00ホテル出発。
サンタクルス発 8:20
ラパス着 9:00
ラパス発 11:10

24日 (日) リマ着 2:00
リマ発 4:00 (現地時間)
バンクーバー着 13:30 (7:05)
" 発 14:00

25日 (月) 成田着 16:30。

Ⅱ 各地の日本語学校巡回について

1. 南 伯

(正 善 達 三)

(1) はじめに

去る昭和58年12月3日から翌昭和59年2月28日までの約3カ月間、国際協力事業団の日本語指導教師として、ブラジルに、短期派遣された。ブラジルといっても南伯方面である。北伯方面は、清水武二氏が、約1カ月半、私と同じく短期派遣された。

今回も、同じように、南伯は私が、北伯は清水氏が担当した。最後は、ボリビアに寄った。国際協力事業団から私たち二人に依頼された目的は、次のようなものであった。

(2) 目 的

I ブラジル巡回指導

- ① 合同研修会での現地日語教師への指導。
- ② 各現地日語校での日語教育の問題点の把握と、改善点の指摘。(奥地型と都市近郊型)。
- ③ 奥地移住地におけるカリキュラムの実態調査及び収集。
- ④ 各現地校での教材開発の現状と、改善点の指摘。

Ⅱ ブラジル日語教育調査

巡回指導の実体をふまえた上での、ブラジル都市型モデルカリキュラムの作成、教材開発への参加、助言。

Ⅲ ボリビア・サンタクルス指導教師打合せ会議

ブラジル奥地型移住地の実体をふまえた上での、サンタクルス奥地移住地におけるカリキュラム作成への参加、助言。

—前回と同じように、現地日語教師への指導ではあるが、著しく変わった点がある。それは、現地にあったカリキュラムの作成への参加と助言である。それも、日本語が全くわからなくなっている都市型と、まだ日本語が、かなり残っている奥地型との、二種類対象とする。

実際には、都市型モデルカリキュラムの作成については、サント・ドミンゴ支部に長期派遣されている日本語指導教師・橋本貞夫氏が、特別にブラジルに派遣され、現地で原案を作成する。(2月16日～3月14日)。

また、奥地型モデルカリキュラムは、サンタクルス支部に派遣されている日本語指導教

師・梅垣義巳氏が、現地で、原案を作成する。

というわけなので、私と清水氏は、カリキュラム作成への参加と助言が、新しい任務となった。いずれにしろ、国際協力事業団が、モデルカリキュラムの作成に乗り出したことは、現地における日本語教育にとって、画期的なことであり、大きな前進として、双手をあげて賛成したい。その為にも、二度めの現地の巡回は有意義である。と、私と清水氏は1月10日、そろって成田を出発し、サンパウロに向かった。以下、南伯方面における巡回指導、ボリビアにおける日本語指導教師の会など、日を追って、述べることにする。

但し、1年前に巡回した所と、ほぼ同じ地区が多いので、前回の報告書に書いたことは、できるだけ省くようにしたい。

(3) ブラジルにおける各日本語校の日本語教育の現況と改善点

(1月10～3月15日)

その1 サンパウロ(1月10日～14日)

昭和60年1月10日、成田発、11日、サンパウロ空港着。国際協力事業団サンパウロ支部(襖田支部長)の山下課長ほかの方々の出迎えを受ける。

2時、支部で打合せ。日伯文化連盟(略称・日文連)、全伯日本語学校連合会(略称・日学連)の役員、柳森優、花田ルイス、森脇礼之、沖野日出子、安江の諸氏出席。宿泊、万里ホテル。(以下、同じ)。

12日(土)支部で、巡回のための準備。

今回は、清水氏と相談の上、「学校要覧」の用紙をつくる。備忘のために、訪問校、地区別研修会に出席した教師の所属している日本語学校の下記の点についての調査である。

1. 学校名 2. 所在地 3. 教育目標 4. 在籍児童数(男女、学年別) 5. 主な学校行事 6. 経営(経営母体責任者、月謝等) 7. 教職員(氏名・年齢・月収・一世二世・専業) 8. 施設(校舎・教室数) 9. 教科書及び副教材 10. 主な校具及び教具 11. 授業形態(時間数・曜日・学級編成等) 12. 備考

なお私は、日本語教育資料として、かんたんな児童劇の脚本を、いくつか創作した。その脚本の印刷も行った。

13日(日) 中央にオベリスコのあるサンパウロ市内の公園に行く。おとなの人たちが、楽しそうに風をあげている。子どもは一人もあげていない。不思議なこと。公園内のビエナル会館で、ブラジル美術展を見る。美術品のほかに、写真、彫刻、遺跡からの採くつ品など。

ブラジル歴史展でもあり、私にとっては有意義な見学だった。つづいて午後は、文化

センター内劇場で、児童劇「いろいろの障害をのりこえて」を観賞。前回のときに引きつづき、これらの案内は、日文連事務局長・花田ルイス氏を煩わした。多謝。帰途、日文連の平田やす子さん宅での夕食会に招かれる。ギタリスト、ピアニスト、俳優さんたちが15、6人集まり、楽しいサロンでさった。

清水武二氏は、サルバドールに向けて、北伯巡回の途についた。

14日(月) 日文連主催の第6回日語教師後継者養成所研修会に出て、一日指導と実習を行った。この回は、前回の第5回にも出席した、前回までは合宿だったが、今回は、アリアンサの教室に、期間中、通学の形であり、人数も、初心者と、経験者のグループ(10人ずつ)をつくった。いよいよ、この研修会も実績により、拡大され、いい傾向だと思った。

私は、経験者(ある程度日本語がわかっている)のグループを対象にした。

研修性は、すべて現地の大学の卒業性で、二世三世の若い女性の研修性だった。指導内容は、次の通り。

1. 子どもに教える日本語教師としての姿勢について

私は、白鳥幸子先生(東京都、ジャパンインターナショナルスクール)の考案した漢字カレンダーの中から、次の字を取り出し、教師としての姿勢を話した。

ア. 明……まず教師は明朗であれ。

イ. 愛……愛情豊かな教師であれ。

ウ. 信……児童、父母からの信頼ある教師であれ。

エ. 幸……子どもと共に幸福な教師なれ。

オ. 運……運は、自分からつかむもの、運をつかむ教師なれ。

あとで、日本語の指導の問題点など、ひとりひとりにアンケートを取ったが、その中に次のようなものがあり、心をうたれた。

「他人の子供を、日本語だけでなく、何から何まで、母親のように教育しなくてはいけない責任がある。」(サンパウロ市、玉田ルツアめぐみ)

玉田さんは、三世であり、まだ若い。それが、「母親」の気持ちを強く感じているのは立派だ。現在、昭和60年度の本邦研修生として、国際協力事業団から派遣され(1年コース)、玉川大学で研修中である。

2. 漢字の指導について。

3. 会話の指導について。

4. よびかけを使った劇について。

――上記の具体的な指導内容については、後日の報告にゆずる。なお、本研修会の企画責任者は、前回に引き続き、森脇礼之氏である。

その2 ドラードス、カンポグランデ（1月15日～22日）

15日（火）移動、サンパウロ→ドラードス。16日（水）ドラードス日本語学校、訪問。

授業参観後、地区教師との研修会。

教師は、本校の西、久末の両先生、地区からは、共栄日本語校の城田志津子先生ナビライ日本語校から、梅林千代先生が出席。

昨年度も訪問し、話しあったが、今回もまた、こまかい教育上の問題について話しあった。相変らずの熱心な態度には、敬服した。

特に、今回は、次のことが印象的だった。

それは、日本の国際交流基金が行った第1回日本語能力テストの受験に、このへき地のドラードス地区から、13人の児童・生徒が参加したことである。ここは、ブラジルの受験地サンパウロから1000km以上離れている。それなのにドラードス日本語校から4人、共栄日本語校から9人も、受験したとのこと。共栄日本語校の場合は、先生も付添った。子どもたちは、修学旅行のように、たいへん喜んで参加。いずれにしても、日本の公的機関が行ったこの日本語能力テストは、いろいろな影響をブラジルはじめ世界各国の日本語教育界に与えることだろう。一つの大きな前進であり、こうしたへき地からの参加に対し、心から敬意を払う次第である。

17日（木）ドラードス日本語校、訪問（第2日） 昨日につづいき、授業の指導と、地区教師との研修会。教科書の朗読の指導と、問題点の話しあい等。

18日（金）共栄日本語校、訪問。

授業の指導（正善） 地区教師と父母との懇談会。教師6名、共栄校の父母12名参加。特に、印象的だったことは、家庭内における両親の会話は、ほとんど日本語であったこと。聞けば、日本語のさかんなアサイ地区からの花嫁さんが、何人かいるとのこと。今回は、初めてそのアサイを訪問することになった。この地区のほかの日本語学校では、両親の会話は、ほとんどブラジル語である。この共栄日本語学校の環境は、相当日本語が残っている特別地区だということがわかった。

使用教科書は、ドラードス日本語校、共栄日本語校共に、いわゆるコロニア版であった。この教科書は、今から20数年前に、ブラジルの現地の日本語学校の教師たちが編集し、第一巻から八巻ぐらまでつくった。体裁は、当時の日本の国語教科書に似ている。然し、一つの課のページは、長くても4、5頁であり、ブラジルの有名な人物伝、土地などの解説もある。発行以来、一度も本文の修正がないので、内容が今の時代にあわない面もあるが、上記の点から、ブラジルでは、相当数の学校（約、三分の一ぐらいか）がまだ使用しているようだ。発行元は、帝国書院。

19日（土）共栄日本語校へ。第1時、授業参観。第2、3時 指導授業（正善）。子

どもの自由な表現教育（リトミックを含む）と、イソップよりとった、私の創作劇“はととあり”を指導。午後、閉会式。近隣の先生方も集って、昼食会。日程の関係で、先生方との、じっくりした研究協議の時間がとれなかった。遠くから末兼達雄氏（南マツトグロソ州文協代表）が、駆けつけてくれたのは、うれしいことだった。

共栄日語校の新築工事落成について

前回、訪問したときは木造だった同校は、今回は、石造りの美事な校舎に変わっていて、びっくりした。これは同校が、地区大会でたいへんよい成績をあげたことから、コロニアの日語校に対する支援態勢ができ上り、僅かの機関に、校舎のほかに、大ホール、台所、便所などが、すべて新しく建てられた。総工費、6千5百万クロゼイロ。城田先生の10年来の、献身的な教育実践が実ったもので、あらためて先生に深い敬意を表する。

福沢諭吉の“心訓”について

共栄校では、毎朝、この心訓を、全児童が声高々と、朗読している。近隣のナビライ校、ドラーダス校なども、同じくやっている。これは、文協代表の末兼達雄氏の提唱とのこと。日系人子弟への精神教育として、大きな効果があり、注目すべきことである。本文は次の通り。

“心訓”

- 一、世の中で、一番楽しく立派な事は、生涯を貫く仕事を持つ事である。
- 一、世の中で、一番みじめな事は、人間として教養のないことである。
- 一、世の中で、一番淋しいことは、する仕事のない事である。
- 一、世の中で、一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事である。
- 一、世の中で、一番尊い事は、人の為に奉仕して、決して恩にきせない事です。
- 一、世の中で、一番美しい事は、全てのものに、愛情を持つ事です。
- 一、世の中で、一番悲しい事は、うそをつくことです。

最後に、この地区の学校の紹介をしよう。特に、使用している教科書の実態など、注目してほしい。（提出の学校要覧から）

1. 共栄日語校

ア. 教師、城田志津子（日本人会経営）以下3名 イ. 児童数、36名 ウ. 教科書、コロニア版、わたしのにほんご（白鳥幸子） エ. 授業、週2日2部制。

2. ナビライ日語校

ア. 教師、梅林千代（日本人会経営） イ. 児童数、55名 ウ. 教科書、コロニア版、光村教科書。エ. 授業、週2日2部制。

3. ファッチマ・ド・スール日語校。

ア. 教師、山本恵美子 以下3名（日本人会経営） イ. 児童数 37名、

ウ. 教科書 コロニア版、 エ. 授業 週1日1部制。

4. デオダポリス日語校。

ア. 教師 岩倉恵子(父母会経営) 以下2名、 イ. 児童数 38名、

ウ. 教科書 なし。自作のプリントによる。 エ. 授業 週1日。

5. グローリア日語校。

ア. 教師、藤田詔夫(婦人会経営)。 イ. 15名。 ウ. 教科書、コロニア版。

エ. 授業、週1日。

6. ドラードス日語校。

ア. 教師 西 史子(日本人会経営) 以下2名。 イ. 児童数 92名、

ウ. 教科書 コロニア版、 エ. 授業 週3日2部制。

20日(日)記録整理。

21日(月)移動、ドラードス→カンボグランテ。

3泊させていただいた城田先生宅から、前回と同じく城田芳幸氏の車で、220km北上。途中、広いサトーキビ畑の中の新設のアルコール工場に寄る。今、ブラジルは、自動車の燃料に、サトーキビからとるアルコールを、全面的に取り入れようとしている。その意気込みは、すさまじいものがある。

昼近く、国際協力事業団カンボグランテの学生寮につく。昼食後、お世話になった城田ご夫妻と別れる。寮長、鎗流馬勲氏に、諸連絡をとっていただく。ホテル・コンコルドに宿泊。

22日(火)午前、学生寮で、この地区の日本語教師、鎗流馬勲(ジャミック日語校)藤本兼次(日伯文化協会日語校)知念常吉(カンボグランテ沖縄県人会日本語講座)の3氏に集ってもらい、地区研修会をひらく。

前回は、開けず、今回初めての会であり、不明だったことが、だんだんにはっきりしてきて有意義だった。

カンボグランテは、日本人が多く(2000人以上とか)、それぞれ生活程度も高い。それにしては、日本語学校3校は、少い。ほかに若干の日語校があるようだが…… 今後の開発が望まれる。3校の概要は、次の通り。

1. ジャミック日語校。

ア. 教師 2名。 イ. 児童数 53名。 ウ. 教科書 コロニア版教科書、にっぽんごかいわ(日文連版)。 エ. 授業 1週5日制。

2. 日伯文化協会日本語学校。

ア. 教師 1名。 イ. 生徒数 22名(変動多し)。 ウ. 教科書 コロニア版。 エ. 授業 月火水曜日午後7時より9時まで(青年多し)。土曜日午後2時より5時まで。児童(大体、10名前後)。

3. カンポグランデ沖縄県人会日本語講座。

ア. 教師 1名。 イ. 児童 6名。 ウ. 教科書 コロニア版。 エ. 授業 月水曜の午後8時から10時まで(日系人の学生、青年のみ)。昨年5月に開設したばかり。

——ジャミック日語校を除く2校は、ほとんどオトナが対象。3先生とも、高年齢であり、若い教師後継者の養成が、望まれる。

多くの日系人の生活しているカンポグランデ地区は、日系人子弟の日語校のたいなる進出を待っている。

夕刻、バルゼア・アレグレ事業団事業所の、三宅所長、上記日本人会役員の鈴川、金崎の両氏等と会食。「これからは、三世の子どもになり、日本語の修得が、非常に困難になってきた。うちの日語校の態勢も、よく考えていきたい。」とは、鈴川氏のことば。バルゼア・アレグレ日語校は、週1回の授業。

その3 ロンドリーナ、アサイ、マリंगा(1月23日~29日)

雨ひどく、三宅所長、小型飛行機の離陸する最後まで見送らる。プレシデンテ・プレシデンテで乗りかえる。時差のため、時計を1時間すすめる。ロンドリーナでは、原田、酒井両氏の出迎えを受ける。

ノビエルホテル宿泊。

24日(木)ロンドリーナ地区日語校教師研修会(大1日)於・西本願寺ルンビニー学苑。

現地の問題点について。

「NHKラジオ日本」で昨年私が放送した「ブラジルの日本語学校を訪ねて(15分間)のテープを、みんなに聞いてもらう。以下、どの研修会も、あらためて考える導入とした。

参加者、17名、活発な感想発表あり。当地区が、日本語教育では、伝統もあり、各教師の研修も、たいへん深いことが、よくわかった。参加校(12校)を紹介しよう。

1. 原田学園

ア. 教師、原田喜代一(個人経営)。 イ. 児童数、44名。 ウ. 教科書、光村図書、にっぽんごかいわ(ブラジル・日文連発行)。副教材……東京書籍、東京外語大発行本、国際学友会発行本、絵本、その他。 エ. 授業、週5日4部制。

日本語の他に、珠算、書道、図工、音楽。

2. めぐみ学園

ア. 教師、酒井政宏(個人経営)以下4名。 イ. 児童数、113名。 ウ. 教科書、光村教科書、他に、日文連版、国際学友会、国際交流基金。 エ. 授業、週5日、低・中・高学年の3学級に分ける。

3. 聖心学園
 - ア. 古賀みづか（個人経営）。イ. 児童数、46名。 ウ. 教科書、光村教科書、東京外語の日本語、にっぽんごかいわ（日文連）。 エ. 授業、週5日。
4. セントロ日語教室
 - ア. 教師、加藤喜代子（個人経営）以下2名。 イ. 児童数、55名。 ウ. 教科書、コロニア版教科書、副教材……会話テキスト、日本語テキスト、漢字カード。 エ. 授業、週5日3部制。
5. 生光学園
 - ア. 教師、戸島元子（個人経営）以下2名。 イ. 児童数、126名（成人48名を含む）。 ウ. 教科書、コロニア版教科書、光村教科書、にっぽんごかいわ（日文連）国際学友会Ⅰ、Ⅱ。 エ. 授業、週5日。成人は、土曜と夜学。
6. ローランジャ学園
 - ア. 教師、比嘉健夫（父兄会経営）。 イ. 児童数、73名。 ウ. 教科書、日本の教科書。 エ. 授業、週5日3部制。
7. 親愛学園
 - ア. 教師、川崎信善（生長の家経営）。 イ. 児童数、39名。 ウ. 教科書、コロニア版教科書と光村教科書と併用。 エ. 授業、週5日3部制。
8. ロンドリーナ本願寺所属
ルンビニー学苑
 - ア. 教師、清水円了（ロンドリーナ本願寺経営）以下7名。 イ. 児童数、128名。 ウ. 教科書、コロニア版。 エ. 授業、週5日3部制。 この他、幼稚園（50名、保母4名）。
9. アプカラナ日語学園
 - ア. 教師、川崎 厚（文協経営）以下2名。 イ. 児童数、95名。 ウ. 教科書、光村図書。 エ. 授業、週5日3部制。
10. 生命学園
 - ア. 教師、中川 彰（生長の家経営）。 イ. 児童数、42名。 ウ. 教科書、光村図書。 エ. 授業、週5日2部制。
11. 誉学園
 - ア. 教師、白戸和子（父兄会経営）。 イ. 児童数、45名。 ウ. 教科書コロニア版。 エ. 週5日3部制。
12. イビポラン日語校
 - ア. 教師、坂本栄子（父兄会経営）。 イ. 児童数、30名。 ウ. 教科書、コロニア版と光村教科書、副教材……にっぽんごかいわ（日文連）クルソ・バジコデ・

ジャポネース、新聞。エ、授業、週5日。

— 1.2校中、個人経営の学校が5校もある。サンパウロ市に次いで、その割合が、たいへん高い。これは、特筆すべきことであろう。また、教科書については、日本の教科書、ブラジル版の教科書、テキスト等、非常に多岐にわたっている。研修会では、新しいブラジルむきの教科書の出現を、強く希望していた。なお、会場を提供されたルンビニー学苑では、自作のテキストに精力的に取り組んで、効果をあげている。こうした傾向は、喜ばしいことであるが、労力も多大である。新しい日本語教科書と、その副教材（絵カードなど）の誕生が待たれる。

25日（金）同上研修会（第2日）

私が、今までの問題点を整理し、主として、「日本語教育は、なぜやるのか」の「理念」について話した。これは、教師だけでなく、ぜひ、父兄にも徹底させてほしいとの要望があり、あとで、パラナ新聞社に、原稿を書いて、渡した。受付の女性は、玉川大学の出身とのこと、うれしい出会いだった。

研修会は、午前で終え、午後は、めぐみ学園を訪問。ここは、酒井政広先生の個人経営の学校で、卓抜した指導により、たいへん成果をあげている。都会型の地域であるのに、日本の光村教科書を主にして学習しているのには、びっくりもし、また敬服した。

もっとも、入学してくる児童には、酒井夫人と、若い二世・三世の教師が、絵を中心に、日本語になじませる。その上で、酒井先生が教える。然し、20名の超複式授業のなかで、ひとりひとりが学習目標を持ち、短い時間の中で、無駄のない、充実した学習をすることは、至難の業である。そのためには、周到な複式に適する、各個人のカリキュラムの作成と、副教材の作成が必要である。以下その要点のみあげよう。

ア. 単語カードの作成

表は、漢字の熟語（または、ひらがな）。裏は、ひらがなと、ポルトゲス。これは、一課ごとに作る。そして、徹底的に、反覆して、おぼえさせる。日本のひらがな読みで、反射的に、その意味がわかるようにまでさせる。

イ. そして、その課にはいり、日本語で読ませる。このときは、読みながら、その内容を、すぐ理解できる。

ウ. 光村の教科書は、絵がたくさん出ている。その絵を使って、会話の勉強もするし、読解の問答もする。

エ. その課についての問題を記入した教師用ノートを作成。それを児童に与え、必要な部分をうつさせ、自習させる。

特に、短文づくりは、徹底的にやらせる。それは、短文づくりをしっかりと、いわゆる作文が、よくできるからである。

オ. そのほか、一年から六年までの漢字カードの作成。各学年ごとにし、授業中に、適

宜与え、自習させる。表は、漢字、裏は絵とひらがな。小さくポルトゲスをつける。カ、光村教科書の改定があれば、それに応じて、すべてをなおしておく。

――その周到な計画と、複式授業中における酒井流の指導は、まことにすばらしい。それだけに、誰でもがやれる方法ではない。願わくば、この方法をもとに、普及できるように、今後の研究を、特に望んでおきたい。

26日(土)

午前7時30分、酒井先生の案内で、アサイにつく。ここは、前回の巡回では訪問していない。それに、日本人のつくった町であり、日本語熱もたいへん高いとのこと。いろいろと期待して、富士学園を訪問する。

授業を参観す。さすがに、児童数は、飛ぬけて多く、225名。然し、親は、一世から二世に移り、三世の子どもたちは、既に、よく日本語がわからない。四年生の教室で、先生が単語を書きこんだプリントを配布していた。見ると、どの単語にも、ポルトゲスが ついている。伝統のある、日本語教育のメッカ、アサイも、やはりここまで来ているのか、とびっくりもし、また感じ入ったことであった。

授業は1時間で終了。そのあと、アサイ地区日本語教師研修会を開く。参加者10名、学校は、10校。

この地区は、さすがに伝統もあり、研修もさかんで、月1回は、定例の自主研修会をやっているという。活発な意見の発表もあり、私の講演と実習も、有意義に終える。

前に準じて、各学校の紹介をしよう。今回から、ア、イ、ウ、エ、オの項目(教師……)は省略する。

1. 富士学園

ア. 上山明正(父兄会)以下5名。 イ. 225名。 ウ. 光村教科書、コロニア版(1年)紙芝居、スライド。 エ. 週6日4部制。

2. バルサモ区日本語校

ア. 佐藤孝逸(バルサモ区自治会)。 イ. 42名。 ウ. コロニア版、光村教科書。 エ. 週6日2部制。

3. セードロ日本語校

ア. 小野良子(セードロ区農友会)。 イ. 19名。 ウ. コロニア版、光村教科書。 エ. 週6日3部制。

4. フィゲラ日本語校

ア. 塚田千鶴子(日本人会)。 イ. 22名。 ウ. コロニア版、光村教科書。

5. パルミタール区日本語校

ア. 八木令次(日本人会)。 イ. 20名。 ウ. 一年コロニア版、二年以上、光村教科書。 エ. 週5日

6. パイネイラ日語校

ア. 若松 清 (日本人会)。イ. 15名。 ウ. ブラジル版日本語。 エ. 週5日2部制。

7. ロゼイラ日語校

ア. 坂本弘子 (日本人会)。イ. 21名。 ウ. っぽんごかいわ (日文連) わたしのはんご (白鳥幸子) 光村教科書 (1-6年)。 エ. 週6日2部制

8. サンタセンリア日語校

ア. 池上かめ代 (日本人会)。イ. 35名。 ウ. コロニア版、副教材……古雑誌少々。 エ. 週6日2部制。

9. カビウーナ日語校

ア. 樋代武雄 (日本人会)。イ. 40名。 ウ. コロニア版 (1年) 光村教科書 (2年~中3)。 エ. 週6日2部制。

10. アモレイラ日語校

ア. 宇田ハツエ (日本人会)。イ. 39名。 ウ. コロニア版 (1年)、光村教科書 (2-6年)。 エ. 週5日2部制。

——教科書は、1年生はコロニア版であるが、2年生以上は、すべて光村教科書使っている。また、週5日、または6日と充実しているなど、さすがアサイである。

27日 (日) 同上研修会 (第2日)

私の講義と実習で、第2日終了。

28日 (月) 移動、アサイ→マリンガ

また酒井先生の案内で、マリンガの文協会館につく。マリンガの訪問は初めてである。いわゆる都市計画が、模範的で、道路と、緑の配合が、まことにすばらしい都市である。文協会館も新しく、付属の運動場、プールもついでいて、たいへんよくできている。

然し、日本語教育での集まりは、今までなく、今回が初めてとのこと。それだけに文協役員は熱心で、鈴木会長ほか多勢学校で迎えてくれた。参加教師12名 (学校9校) はじめて会う人も多く、情報の交換など、楽しくやっていた。では、学校紹介をしよう。

1. 愛光園

ア. 宮本純子 (個人経営) 以下3名。イ. 32名。ウ. コロニア版、(児童) 光村教科書、(成人) っぽんごかいわ (日文連)、国際交流基金・会話の本・紙芝居・図書。エ. 週5日3部制。

2. アシス・シャトールリアン日語校

ア. 上村スマ (文協)。イ. 86名。ウ. コロニア版、(2年~6年) あたらし

- いとくご(1年生)絵本、科学読本。 エ、週6日2部制。
3. 本願寺学園
ア、梶原道子(本願寺)以下2名。 イ、76名。 ウ、コロニア版。
エ、週5日2部制。
4. アルボラーダ日語校
ア、細田 稔(日本人会)。 イ、45名。 ウ、不明。 エ、週5日3部制。
5. マリアルバ日語校
ア、東海林 徹(文協)以下2名。 イ、69名。 ウ、コロニア版、にっぽんご
かいわ(日文連)。 エ、週6日3部制。
6. マンダグアリー奨学会
ア、藤原悦玲(文協)。 イ、22名。 ウ、コロニア版。 エ、週6日2部制
7. 龍陽日語校
ア、今治オルガ・サツ子(個人経営)。 イ、29名。 ウ、光村教科書、受験研究
社(標準問題集)。 エ、週5日2部制。
8. サンタクルス日語校
ア、高 澄子(カトリック修道会)。 イ、20名。 ウ、コロニア版。
エ、週5日1部制。
9. マリンガ州立大学日本学研究院
ア、今治伸義(大学)以下2名。 イ、11名(学生)。 ウ、国際学友会、東京外
語大学(テープ付)、国際交流基金(読み方)。 エ、週5日1部制。

—たいへん活発な意見発表あり、有意義であった。

29日(火) 同上研修会(第2日)

私の講義と実習で、午前で研修会は終了。今後、文協が中心になって、定期的自主的
な研修会を持つように、と希望した。この研修会が、そのきっかけになれば嬉しいこと
だ。

午後、愛光園、マリア大聖堂、自然公園、動物園など見学。午後8時15分、マリン
ガ飛行場より、空路1時間、サンパウロに帰る。事業団の小池職員の出迎えを受ける。
今回のロンドリーナ、アサイ、マリンガは、すべて初めての地区であり、研修会も、活
発に行われ、有意義だった。

その4 サンパウロ(2)(1月30~2月4日)

30日(水) 第27回全伯日語校職員講習会(第一日) 於・大坂浪花会館

北伯を除いて、南伯の各地から160余名の日語教師が集る。会期8日間。主として日学
連が企画・運営しているが、規模としてはブラジルならではの、たいへん大きな講習会

である。

第1日の開講式に、講師を代表して挨拶。午後には、第6回国際協力事業団派遣本邦研修生、大山多恵子先生の研究発表を開く。私にとっては、玉川大学の教え子である。主として、子どもの劇の指導などについて、要領よく発表。よくできて、うれしかった。

夜は、第2回本邦研修OB回が開かれた。事業団の襖田支部長、山下課長の激励のことばなど。小冊子ながら、機関誌「虹」(創刊号)が出来て、拝見する。題名は、私が名づけ親であり、我が子の誕生を見るようで、うれしかった。森協会長はじめ、編集の皆さんに、深く敬意を表す。第2、3号と、地味ながら、継続して発行し、日本語教育振興の一助にしてもらいたい。

31日(木)総領事公邸招待昼食会。

恒例とはいえ、講習会参加者全員が、総領事公邸に招かれ、昼食のご馳走になる。私も、参加させていただいたが、日本語教育で、日夜ご苦労している教師たちにとっては、まことにうれしいひとときである。終りに、酒井政広先生指揮による“日本の童謡”を、みんなで合唱し、総領事ご夫妻におくった。心なごむ美しい場面であった。

午後は、私の“現地指導の所感”という講演を行った。各地の実情の紹介から、日本語教育は、今、大きなまがりかどに来ている、ということ話を話した。

特に、ある地方都市の有力者の一人が、私に面と向って、「私は、我が子に、日本語は勉強しなくてよい。外国語をやるなら、国際語の英語をやれ。」といわれたことについて話した。

町の有力者の何人かと同席の夕食会の席上だったが、さすがに、誰もその人に同意する人はいなかった。それにしても、こうした意識は、やはり、どこかにひそんでいる。

「私たちは、なぜ、日本語教育をやるのか」について、あらためて、参会の教師諸君に訴えたのである。これは、反響もあり、講演後、何人かの先生が、私に同感の意を伝え、地域の実情を訴えた程だった。私としては、持論として、次のように話した。

1. まず、日本語の勉強は、このブラジル国の発展のために学ぶものである。多民族国家として、いろいろの国の長所を生かすことがたいせつであり、また歓迎されている。

2. つぎに、父母や、祖父母の母国日本を理解し、ブラジルと日本との「かけ橋」になることである。これは、ブラジルのために、なることである。そして、また、日本の発展の一助にもなることである。よき日系ブラジル国民になってほしい。

——いたずらに、日本人の優位性をとなえることは避け、あくまでも、生れた祖国、ブラジルに目を向けた日本語教育であってほしい。この問題は、今後も、くり返し提出されると思うが、各地域の実情を知り、慎重に処していかなければならない。

さて、会期中に、第6回本邦研修生の、物部テレーザ喜代子、中原マリア、坂野恵美子、馬場康二の諸先生の研修報告があった。どれも、日本語教育と共に、子どもに対する教育者としての心構え——全人教育のたいせつなことを述べ、すばらしいと思った。そのほか、声楽に得意な坂野先生は、玉川大学で習った数々の楽しい歌を、美声をはりあげて指導、満場の先生方を感動のうずまきこんだ。楽しくも、実のある研修報告だった。

2月1日(金)・2日(土)・3日(日)

同上講習会(第3、4、5回)

4日(月)、同上講習会(第6回)。私は、「演劇指導」の実習を、全参加者の先生方を相手に行った。こんな多勢の方を対象にしたのは、はじめてであったが、事務局からの依頼でもあり、やってみた。各地区の研修会でも行ったもので、大体、次のような内容である。

1. 観客を対象としないでの身体表現。

自分自身を解放し、集中力、想像力を使って、あるものになりきる。

これは、1分でも5分のような短かい時間でも、できる。(例、巨人になる。)

2. 日本語教育の資料として、よびかけを取り入れた短かい劇の実演。三編ほど、イソップから脚色した私の創作台本。きょうは、その中の「ありと、はど」を、全員が、よびかけの人物となり、やった。

よびかけは、ひとりがいうと、多勢が声をそろえていう。これだと、日本語がわからない子どもでも、ほかの子どもの声につられて、いうようになる。よびかけは、詩の朗読と同じようなものであり、はっきりした発音、発声の基礎にもなる——というわけで、短かいよびかけの劇を、もっと日本語教育に活用したいものである。みんな、たいへん楽しく演じてくれて、うれしかった。

その5 レジストロ、クリチーバ(2月5日～11日)

5日(火)移動、サンパウロ→レジストロ。全伯の講習会は、6日まで続くが、私は、日程上、馬場康二先生の案内で、定期バスで南へ180kmのレジストロに行く。事業団の山下課長も同行。リト・パレスホテル宿泊。

6日(水)レジストロ日語校訪問。授業参観。このあと、レジストロの特産、茶の工場、ゴザの工場、バナナの畑など見学。

隅田文協会長の案内でまわったが、「斗魂」という開拓記念碑を見せていただく。「斗魂」が普通だが、敢えて「斗魂」にしたという会長の言葉を聞き、当時のご苦勞を思いやった。

夜は、木村父兄会長たちと夕食会。

7日(木) レジストロ日本語学校訪問。第1時、正善指導。第2時、馬場先生指導。学校は、レジストロでは、本校一校のみ。学校紹介。

1. レジストロ日本語校

ア. 馬場康二(父兄会)以下2名。イ. 107名。ウ. 東京書籍の教科書、光村教科書、コロニア版、にっぽんごかいわ(日文連)私のにほんご(白鳥幸子著)。エ. 週5日4部制。

——子どもの持っている教科書について、馬場先生から、「特別に、一つの教科書にすることができない。いろいろな家庭からの子どもを引受けるので、光村の教科書でも、発行年度の違った本を、めいめい持ってくる。何種類の教科書を持つ、超複式授業であるので、指導には、頭を痛めている。」という話を聞いた。生活のかかっている馬場先生としては、経営上、一人でも多くの子どもを収容したい、というわけで苦勞している。それにしても、107名という児童数は、立派だ。珠算なども取り入れているが、いよいよの発展を期待してやまない。

午後、父母懇談会。レジストロ市は、日本の中津川市と姉妹都市である。それだけに、みな日本語熱は高い。この地も、はじめての訪問地であり、有意義な懇談会だった。

8日(金) 移動、レジストロ→クリチーバ。馬場先生の案内で、バスでクリチーバへ。大山多恵子先生の出迎えを受ける。事業団の出張所長の那賀氏に会い、オハラホテルに宿泊。

9日(土) クリチーバ日伯文化援護協会・日本語講座、訪問。地区日本語教師研修会(第1日)。文協として、去年はじめての日本語学校を作った。周囲の地域には、日本語は全く残っていない。教師は、すべて二世・三世で開校。然し、教師の待遇をよくしたりして、熱心に指導し、児童生徒数も145名に達した。立派な出発である。

私としては、この地は初めての訪問であった。それに会場校の先生方をはじめ、10人以上の参加者があり、活発な話し合いが持たれ、有意義な研修会だった。

学校紹介、次の通り。

1. クリチーバ日伯文化援護協会・日本語講座。

ア. 佐藤クララみえ(援護協会)以下10名。イ. 145名(内、児童は19名、後は学生・成人)。ウ. アリアンサ発行の教科書(子ども向き、おとなむき・日文連)。エ. 週4日(但し、生徒は週2日)単式授業。

2. クリチーバ日本語校

ア. 大山多恵子(個人経営)以下3名。イ. 58名(主として成人)。ウ. にっぽんごかいわ(日文連)東京書籍教科書、国際学友会(日本語読本)。エ. 3部制(日教、回数、生徒の希望による)。

3. 純心学園

ア. 山内正己(長崎純心聖母会)以下10名。イ. 幼、72名、小学生、120名、
ウ. 日本の教科書。エ. 週5日2部制。

4. カストロ奨学舎

ア. 栗原喜八郎(文協)以下3名。イ. 52名。ウ. 以前は日本の教科書、2年前
からコロニア版。会話テキスト。エ. 週5日、単式授業。

10日(日)同工研修会(第2日)

主として、私の講義と実習。劇の指導、日本語教育の理念など。パラナ新聞社の笠岡
達男氏、取材に見える。

11日(月)カストロ奨学舎、訪問、事業団出張所的那賀氏、大山氏同行。ここも、
初めてだが、寄宿舎があり、たいへん大きな施設。寄宿舎の生活は、会話をはじめ、日
本語教育には、たいへん恵れている。然し、経済の上から、相当の学資がかかるのが難
ということ。

帰途、ポンダ・グロッサ日語校による。ここは、今までいた専任教師が転出したので
休校同然になっている。(代りに主婦の先生が、臨時につとめている。)然し、石川文協
会長はじめ、熱心な父兄が多い。経済的にも恵まれていて、近くに、新しく建てている
教室や、立派な運動場を持っている。父母との懇談会を終え、そこへ案内される。立派
な施設である。早く、専任の先生がくるとよい。

その6 ポルトアレグレ(2月12日~22日)

12日(火)午前、ひまわり幼稚園、訪問。大山先生のお嬢さんが、先生をしてい
る。

ついで、クリチーバ日本語学校へいく。市の中心部にあり、高いビルの中の二室を
使った学校である。今のところ、成人が多いのが、幼少年を、ふやす方針。相当の月
謝を出しても、日本語を習いたいとい層が、着実にふえているのは、注目される。特に
クリチーバのような地方都市にて、である。日系人のほかに、ブラジル人の入学者がふ
えつつあるが、教材教具の整備、指導技術の向上があれば、この傾向は、もっと急角度
に上昇することは、明白である。そうなるように、関係者は、私たちを含め、大いに努
力したい。

午後2事業団40分、クリチーバ飛行場をたち、南下、同3事業団30分、ポルトア
レグレ空港着。

事業団の安井職員、並びに宇部先生(第5回本邦研修生・南伯日語協議会会長)ご夫
妻の出迎えを受ける。事業団の吉松支部長と共に、近くの領事館にいき、鈴木領事を訪
問。サンルイスホテルに宿泊。

13日(水) カンアス・ドスール日語校、訪問。教師の高梨輝久氏は、ブラジル屈指の電気製品会社の工場長である。日本式の経営方式を社長に進言し、その為に、社運は急速度に上昇した。氏は、社員を中心として、日本語を指導し、優秀な成績をあげ、日本への国費留学生を、自分の教え子から、つづけて何人か出した。この地区にあった日本人会は機能を停止し、氏は、自分ひとりの力で、教室その他を提供し、全くの奉仕で活動している。高梨氏の独特の指導法は、まことに、すばらしい。大変、困難な条件であるが、とにかく継続してほしいものである。イタリアホテル宿泊。

14日(木) 移動、カンアス→クリチバーノス、約、400km、安井職員運転の車で北上。ラピホテル宿泊。

15日(金) 移動、クリチバーノス→ラーモス。ラーモス日語校、訪問。父母懇談会を開く。鈴木忠臣日本人会長はじめ、父母10名出席。教師2名(森、芝田先生)

この地区は、森佳子先生が、8年間にわたり、熱心に指導をして、4年前、「わたしの町ラーモス」が生まれ、N新聞社が募集していた「日語学校愛唱歌」第1位に入選。作詞は生徒の本多清香。これに、日本の山口洋子が補作、作曲は神津善行。立派な成果であり、大いに祝福したい。父母との懇談会も、有意義に終了。

移動、ラーモス→ラージュス。グランデホテル宿泊。

16日(土) 移動、ラージュス→ポルトアレグレ。サンルイスホテル宿泊。

17日(日) 記録整理。

18日(月) イボチ日語校、訪問。父母懇談会。田中文協会会長はじめ、父母10名、教師1名出席。家庭教育と日本語について、活発な意見が交換され有意義だった。

19日(火) イタパン日語校、訪問。父母懇談会。ここは、入植してから約10年。13軒の農業自営業であるが、ブラジル生活は長い。

米、雑穀、トマト、野菜づくりだが、みんな、よくまとまっている。それだけ、日本語は残っている地域である。というわけで、「日本語は、どの程度までやるのがいいのであろうか。この地域の子どもたちは、ある程度、日本語はできる。むしろ、大学進学するときには、ポルトゲス(ブラジル語)ができなくて困っている。」

ということばが出てくる。ポルトアレグレ地区は、ほとんど日本語が残っていないが、日系人が集団をなしているようなところは、やはり特別である。ポルトゲスの学習は、たいへん重要である。地域の実情により、ポルトゲスと日本語の両方について、よく考慮しなければならない。いずれにしろ、日本語教育について、初めての懇談会であり、夫婦おそろいの出席者も多く、なごやかなかに、率直な意見も出て、有意義であった。

20日(水) パードレ・リノスタール・アニラブ日語教室、訪問。教師と父母懇談会。会話の指導に、ニュース(新聞)を用いて効果をあげている、とのこと。生徒の年

命が高い場合は、特によい。幼稚な題材では、ついてこないからである。学生以上のおとなには、効果的であろう。

21日(木)ポルトアレグレ地区日語教師研修会(第1日)於・援護協会。

午前9事業団、開講式。援護協会長と、吉松事業団支部長の挨拶。出席者、教師11名。

初めに、ここの南伯日語教育連絡協議会の初代会長をつとめた、故・木内 務先生のご冥福を祈って、全員黙禱を捧げる。先生は、サンジャキン日語校教師 だったが、昭和59年9月21日、病気で急逝された。然し、それが、この地区には伝わらず、年を越してから判明したような次第で、二代会長、宇部先生はたいへん、その確認に苦勞された。この訃報は、参会の先生方にとっても、初めてであり、みんな大きなショックであった。私も、ここへくる前に、サンパウロで確認はしてきたが、先生は第3回本邦研修生でもあり、その明るい性格など、教育者としても、前途洋々たるものがあった。惜しい極みであり、心からのご冥福を祈る次第である。

研修会は、各学校の実情報告、問題点の提起などを中心に、活発な意見の交換が行われた。日常、ほとんど連絡などできない地区だけに、貴重な会であった。

学校紹介、次の通り。

1. イボチ日語校

ア. 高田照子(文協)。イ. 53名。ウ. 東京書籍教科書、私のにほんご(白鳥幸子)日常会話の基礎(連邦大学講座使用のもの)。エ. 週4日1部制(幼稚部) 週1日1部制(小学部、青年部)。

2. ベロッタス日語校

ア. 山口長俊(文協)。イ. 9名。ウ. コロニア版、にっぽんごのかいわ(日文連)。エ. 週1日1部制。

3. イタパン日語校

ア. 土井熊蔵(日本人会)。イ. 17名。ウ. 東京書籍教科書。エ. 1日1部制。

4. カシヨエクラ日語校

ア. 管野初江(日本人会)以下2名。イ. 12名。ウ. 日本の教科書。エ. 週1日1部制。

5. ポルトアレグレ日本人補習校

ア. 牧野初枝(日本人子弟教育会)以下3名。イ. 21名。ウ. 派遣者クラス(日本の教科書)コロニアクラス(光村教科書・にっぽんごのかいわ・日文連)。エ. 派遣者クラス……週5日1部制、コロニアクラス……週3日、2日、1日1部制。

6. クリチバーノス日語校(新校)

ア. 芝田茂子(文協)。イ. 39名。ウ. にっぽんごかいわ(日文連)。

エ. 週2日2部制。

7. ラーモス日語校

ア. 森 徳子(文協)。イ. 52名。ウ. 光村教科書、その他、わたしのにほんご(白鳥幸子)。エ. 週2日1部制(金曜2時間、土曜8時間)。

8. カシアス・ド・スール日語校

ア. 高梨輝久(個人経営)。イ. 23名。ウ. 光村教科書、アリアンサの日語テキスト(日文連)。エ. 週1日1部制。

—この地区の授業回数は、ほとんど週1日、又は2日であり、ブラジルの水準からいうと、低い。

22日(金) 同上研修会(第2日)。

連邦大学に、国際交流基金から派遣されている、古旗隆子先生の特別講義をいただく。前回に引きつづき、大変懇篤な講義で、学生に対する日本語教育の内容を、かみくだいて話され、有益だった。学生なので、文法からはいるが、やはり、固くなつては学習の意欲がつつかず、歌など楽しい方法を多く取り入れた、など、故どもへの学習方法と通じる点などの指摘は、興味深いものがあった。

私は、劇の実習などやり、楽しくて充実した研修会だった。

その7 アラサツバ(2月23日~28日)

23日(土) 移動、ポルトアレグレ→サンパウロ。

24日(日) 記録整理。

25日(月) 移動、サンパウロ→アラサツバ。柳森氏同行。7時45分、サンパウロ空港発、10時アラサツバ空港着。アラサツバ日語校本校、訪問。ついで、同中央校、至誠日語校、訪問。どこも授業を参観、故どもの朗読のテープをとった。

26日(火) ノロエステ地区日語教師研修会。於・文協会館。

この地区は、26年前に、ノロエステ日語普及会が生まれ、活発な活動を続け、今に至っている。その会長を、創設以来なさっている佐藤忠四郎氏の挨拶から、はじめた。力強いお話は、相変わらずで、なつかしく、うれしかった。ついで、同行された柳森優先生(日文連日語普及部長)の、ブラジルにおける日本語教育についての貴重な報告があった。教師出席者17名。はじめに、教科書についての希望や意見を、各先生にお聞きした。次のようなことが、多かった。

- ・ 教科書のこと、一番困っている。
- ・ あまりにも、教科書の種類が多い。同じ出版社の教科書でも、兄弟が譲り受けてい

るので、古いのも多く、指導するとき、頭が混乱してくる。

- ・ コロニア版は、25年以上、一回も改訂されていないので、時代的に古い。今の日本のことは、全く教えられない。
- ・ 系統性のある教科書がほしい。今の日本の国語教科書では、日本語が全くわからないで入学してくる子どもには、程度が高すぎて不適切である。
- ・ 教科書は、上と下の二冊でなく、一冊にまとまっていた方がよい。二冊は無理だ。一つの課が、量的に短かいのはいい。その点、コロニア版は、日本の国語教科書より短かいので、やりやすい。
- ・ 日本の国語教科書は、いい絵が数多くはいついてよい。また、感動させられる物語がはいついて、よい。但し、ときどき改訂が行われるのは困る。
- ・ 入門期の教科書をつくってほしい。また、日本のことばが出てくるときは、すべてにポルトガル語訳をつけてほしい。

27日(水) 同上研修会(第2日)。

私の講義と実習を主にして行った。特に、子どもの朗読について、その必要性と、指導上の注意を話した。私は、朗読の必要性を、下記のことから強調した。

1. 朗読は、日本語の発音・発声の基礎から指導する。学習上の起点である。
2. 朗読は、単に、文字を誤りなく読めるか、どうかを確めるために取りあげているのが普通である。然し、これは、最低の取り組みである。
3. 朗読は、書いてある文章の内容が、よく理解しているか、どうかを確めるのに、最も適切な学習である。
4. 朗読は、家庭学習として、たいへん効果的だ。必ず、毎日、家庭で朗読させること。家庭で、親との日本語による会話を、と切望しても、実情は無理。とすれば、まず子どもが、ひとりでもできる朗読を、家庭で行うことがいい。こうすれば、これがきっかけとなり、日本語による親子の会話も生れてこよう。
5. 朗読に対する子どもの学習意欲を、もっと高める必要がある。そのためには、教師自らが、朗読について、しっかり、その指導の方法を学ばねばならない。
6. 年1度のお話大会は、どこでもやっている。これからは、朗読大会を取りあげてはどうか。小さな、校内の朗読大会でもよい。朗読は、お話にくらべて地味ではあるが、どの子にも、必ずできる機会が提供される。工夫をこらし、やってもらいたい。子どもは、きっと、意欲をもやして朗読を進んでやるようになるであろう。

以上のことから、私は、発音・発声、アクセント、イントネーション(抑揚)プロミネンス(強調)、ポーズ(間の取り方)などについて、指導した。

28日(木) 同上研修会(第3日)。

二日前に、こちらの授業で採取した、子どもの朗読録音テープを使って、評価の実際

をやってもらった。それぞれ、評価の観点を三つ作って、テープを聞いて、採点その結果を公表し、お互いに参考にした。先生方ひとりひとりが、朗読の審査員になったわけで、まことに真剣な勉強ぶりだった。

このあと、劇の実習をやり、閉講式に移った。楽しく、また充実した研修会だった。

先生方から、講習会の感想文をいただいた。いくつかを、ご紹介しよう。(一部分抜すい)。

1. プロミッソン日語校。

中 場 マサ子

アナウンサーのように、感情をこめて朗読できるようになれば、自分自身も楽しいでしょうし、また聞く側に立っても、その内容がよく理解できるので、とっても大切な勉強だったと思います。ひとりひとりの教師自らが磨いていかなければ、生徒の成長は望めないと思います。実際の授業に適応したテーマを選んで下さったことを感謝いたします。

2. ミランドポリス日語校。

成 田 義 直

「家庭内に日本語を持ちこむ」各家庭内で必ず教科書を宿題として朗読させること、これは、素晴らしいと思います。また、朗読の評価等、手近かな問題なのに気づかず今迄でも、全伯講習会(八日間)に於ても、私は得られなかった問題を、三日間でたくさん得られた成功に感謝しております。

3. アレグレ日語校・日東日語校。

安 藤 エリザ

文や詩の朗読の観点のとらい方、その評価法など、今後、自分のため、そして教える上に大いに訳に立てられます。音声表現は、中でも最も私によかったと思います。父母が関西出なので、私の日本語のアクセントは、すべて共通語と逆なことがわかり、訪日研修でも、特に音声を学びましたが、今回の先生のご指導で、もっとよく理解できた点がありました。

——みなさんに、たいへん喜んでいただき、うれしかった。

学校紹介、次の通り。

1. アラサツバ日語校(3校)

ア. 土屋文明(文協)以下3名。至誠校(土屋文明)。本校(金沢留蔵)。中央校(幸地美智子)。イ. 136名。ウ. 東京書籍教科書、会話テキスト。エ. 週5日3部制。

2. 日東日語校、アレグレ日語校。

ア. 安藤エリザ(日本人会)。イ. 27名。ウ. 東京書籍教科書、会話テキスト。エ. 週3日(2校なので、週3日ずつ)2部制。

3. サントポリス日語校

ア. 長野朋勝(文協)。イ. 40名。ウ. 東京書籍、光村教科書。エ. 週5日

3部制。

4. ペレイラ・バレット日語校
ア. 河村信男(文協)以下5名。 イ. 184名。 ウ. コロニア版、漢字カード。
エ. 週5日4部制。
5. ビリクイ日語校
ア. 松岡理三(父兄会)。 イ. 34名。 ウ. 日本の教科書。 エ. 週5日3部制。
6. 第一アリアンサ日語校
ア. 色川 望(文協)。 イ. 62名。 ウ. コロニア版。 エ. 週5日2部制。
7. 第二アリアンサ校・フォルモーザ日語校。
ア. 平松光雄(文協)。 イ. 76名。 ウ. 東京書籍教科書。 エ. 第二アリアンサ校(週5日2部制)フォルモーザ校(週3日1部制)。
8. 第三アリアンサに。
ア. 松田博昭(富山県派遣教師・文協)。 イ. 45名。 ウ. 光村教科書。
エ. 週5日2部制。
9. プロミッソン日語校。
ア. 安永忠邦(父兄会)以下2名。 イ. 63名。 ウ. 光村教科書、日文連会話帳。 エ. 週3日2部制。
10. アンドラジーナ日語校
ア. 長谷川雅央(文協)。 イ. 53名。 ウ. 東京書籍教科書。 エ. 週5日2部制。
11. ミランドポリス日語校
ア. 成田義直(文協・父兄)。 イ. 59名。 ウ. 不明。 エ. 週5日2部制。

その8 サンパウロ(3) (3月1日~15日)

3月1日(金)移動、アラサツーパー→サンパウロ。

2日(土)ドミニカからブラジルのカリキュラム視察にきていた橋本貞夫氏と、北伯方面巡回を終った清水武二氏と久しぶりに会い、お互いの情勢報告を交換しあった。

3日(日)現地の文化視察と観賞。

1. 児童劇「ピンパンとジェリエッタ」於・パラサリーヤ・ピンパン劇場。

劇生活30年のうち、16年間、つづけてこの自作の脚本で、演じている。氏名は、バウデマール・シーラス。ブラジル演劇賞受賞。楽しい、道化のひとり芝居である。途中で、観客の子どもたちも舞台にあげ、いっしょに、楽しく演じた。

2. 現代劇「ラジオ2000年」於・マリア劇場。

集団創作とか。ダンスを中心に、迫力のある劇だった。前回に引きつづき、日文連事務局長の花田ルイ氏と、平田やす子さんの案内による。ありがたかった。

4日(月)モジ・スザノ地区日語校教師研修会(第1日)。

モジ文協会館で、文協会長の北口勝治氏に再びお会いする。会員1,500家族。日系の家族数は、約4,500はあるとのこと。ブラジルでは、一番伝統のある日系人地区であり、日本語教育も、たいへんさかんである。参加者、30余名。役員父兄からも、活発な意見などあり、充実した研修会だった。

5日(火)同上研修会(第2日)。

アラサツバに純じて、朗読についての研修を中心に行った。一同、たいへん熱心に、効果をあげることができた。

モジ・スザノ地区の学校紹介、次の通り。

1. モジ中央日語校

ア. 永田泰三(父兄会)。イ. 43名。ウ. コロニア版、光村教科書。

エ. 週5日2部制。

2. モジ・ピラモラエス日語校

ア. 成田 晋(日本人会)。イ. 49名。ウ. コロニア版、にっぽんごかいわ(日文連)。

3. ビラスイサ 日語教室

ア. 西田克美(個人経営)。イ. 39名。ウ. 東京書籍教科書、にっぽんごかいわ(日文連)。エ. 週4日5部制。

4. モジ生命学園

ア. 笹島エリナ(成長の家他)以下3名。イ. 23名。ウ. 不明。

エ. 週4日

5. いそだ教室

ア. 磯田淑代(個人経営)。イ. 39名。ウ. 光村教科書、東京書籍、国際交流基金(会話入門)。

6. しらゆり日語教室

ア. 野沢由起子(個人経営)以下2名。イ. 71名。ウ. 東京書籍教科書、日本語(東京外語大学)。光村教科書(中等部)。エ. 週5日2部制他。

7. エスタンシア日語教室

ア. 井上昭子(個人経営)。イ. 37名。ウ. コロニア版、東京書籍教科書、にっぽんごかいわ(日文連)、音楽の本。エ. 週3日2部制。

8. ピンドラーマ日語校

ア. 中島 勇(日本人会)以下2名。イ. 110名。ウ. コロニア版、他、こども

百科。 エ. 週5日4部制。

9. タイアスベーパー日語校
ア. 末永亘子(日本人会)。 イ. 28名。 ウ. コロニア版。 エ. 週5日2部制。
10. スザノ福博日語校
ア. 水口恵司(文協)以下3名。 イ. 121名。 ウ. 東京書籍教科書、にっぽんごかいわ(日文連)。 エ. 週5日2部制。
11. スザノ金剛寺学園
ア. 堀内昌子(個人経営)以下3名。 イ. 222名。 ウ. コロニア版、にっぽんごかいわ(日文連)。 エ. 週5日4部制。
12. スザノ本願寺学園
ア. 豊橋久美子(本願寺)。 イ. 120名。 ウ. コロニア版。 エ. 週5日2部制。
13. カッパーラ・オンゼ日語校
ア. 谷和枝(日本人会)。 イ. 44名。 ウ. コロニア版。 エ. 週5日2部制。
13. ポルテーラ・プレッタ日語校
ア. 小池千恵子(日本人会)。 イ. 44名。 ウ. コロニア版、光村教科書、にっぽんごかいわ(日文連)。 エ. 週5日2部制。
14. ボツジュール日語校
ア. 小野多津(日本人会)。 イ. 6名。 ウ. コロニア版。 エ. 週6日2部制。
15. コクエーラ日語校
ア. 石橋節子(日本人会)。 イ. 125名。 ウ. 光村教科書。 エ. 週5日2部制。
16. 曙日語校
ア. 岡田忠(日本人会)以下2名。 イ. 97名。 ウ. 東京書籍教科書。
エ. 週5日4部制。

6日(水) サントアンドレ日語校、学習館、訪問。地区研修会。

サンベルナンド日語校は、児童数220名、河野八千代校長の下、たいへん効果的な授業を行っていた。学習館は、児童数、約400名、岡崎先生ご夫妻の個人経営。おそらく、ブラジルで一番大きい日本語学校であろう。地域父兄の絶大な信頼受け、いよいよ発展のようす、深く敬意を表したい。清水武二先生と同行。

7日(木) アニャンゲーラ日語校、訪問。日文連の研究部長・森脇礼之先生が校長をしている同校は、教師1人について8人の生徒数で、系統的な授業をし、たいへんすぐ

れた効果をあげている。大体の進学クラス順は、次の通りである。(私のメモによる)

- A. 児童級 4才～10才、1月40時間、平均、200時間(5カ月間)
- B. 少年初級 8才～10才 1月40時間、平均、860時間(1年9カ月)
- C. 少年中級 11才～13才 1月40時間、平均、638時間(1年7カ月)主として国際学友会よりとった自作テキスト。
- D. 少年上級(13才以上) 1月40時間。平均320時間(8カ月間)主として、外語大初級テキストによる。
- E. その他、物語(童話)21篇を読む。テープを聞く。漢字1000字の修得(まだこの修了者はいない)など。

綿密な計画は、すべて実践の結果から作成され、その成果は、注目に値する。すべて、少人数による複式授業である。今後の、多様な活動面への研究と実践を期待してやまない。

8日(金)日語教師代表者意見交換会、於・サンパウロ文協会館。

事業団の主催で、上記り会が開かれた。私と、清水武二先生、橋本貞夫先生も招かれて同席。出席の諸先生と、実情の報告や、意見の交換を行った。教師の出席者は、次の通り。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. かしもと日本語教室 | 橋本洋子 |
| 2. めぐみ学園 | 酒井政広 |
| 3. クリチーバ日語校 | 大山多恵子 |
| 4. ピラールドスール日語校 | 村中博 |
| 5. モジ日央日語校 | 永田泰三 |
| 6. いそだ教室 | 磯田淑代 |
| 7. アニャンゲーラ日語校 | 森脇礼之 |
| 8. 昭和学園 | 朝川甚三郎 |

このほか、事業団の榎田支部長、山下課長、安江日学連事務長、文協役員など。それぞれ貴重な意見が述べられ、有意義だった。

9日(土)都市型カリキュラム検討会。

事業団の支部会議室で、橋本貞夫先生が企画した都市型カリキュラムについて、私と清水武二先生が、意見を述べあった。非常に、新鮮な企画でいいカリキュラムの誕生が期待される。

10日(日)、記録整理。

11日(月)、イビウナ奨学舎、訪問。

山本豊校長の申請により、私と清水先生は、日程をやりくりして、特別に同校を訪問した。

1948年に開校、寄宿舎つきの立派な校舎である。児童生徒数は、106名。授業を参観し、あとで教師、父兄合同懇談会を行った。

12日(火)、午前中、市内の花市場を見学した。ブラジルの各地にも配る、たいへん大規模な市場であった。

午後、私や、清水先生、橋本先生の報告会を、文協会館で行った。都市型カリキュラムについて、橋本先生が発表され、全体の人から、早く出してほしい、という要望も出た。

このあと、各界の代表の方々と、歓送会が行われ、ありがたいことだった。

13日(水) 記録整理。

14日(木) ポリビアへ移動しようとしたが、現地状況不安のため中止。

15日(金) サントス見学。

(4) ポリビア・サンタクルス(3月16日～25日)

16日(土) 移動、サンパウロ→ポリビア・サンタクルス。

サンパウロ10:30発、サンタクルス13:00着。すぐ、ポリビアの日本語教師の全体研修会場の第一オキナワ日語校につく。私と、清水武二先生は、早速、研修の先生方に講習を行った。事業団派遣の諸先生は、すべて集まった。氏名、次の通り。

サンタクルス支部(梅垣義巳)、アスンシオン支部(山中忠男)、プエノスアイレス支部(西川 猛)、サントドミンゴ支部(橋本貞夫)、それに、ブラジル短期派遣の正善達三と、清水武二の六氏である。

事業団の平野重則支部長、古賀東京本部職員、友永オキナワ第一所長、山城オキナワ日ポ協会長も、出席された。

17日(日) 砂の丘見学。私たち、派遣教師たちは、古賀職員を交え、事前打合せ。

18日(月) 農村型カリキュラム検討会(第1日)。

ホテルの会議室で、上記の会をひらく。サンタクルス支部の梅垣先生より、原案が提出された。これは、サンファン日語校の実践している光村図書の国語教科書、1、2年の年間指導計画(案)である。光村図書の学習指導書を参考にし、特に、指導内容の要点は、現地の実情にあうように訂正されてある。このほかに、「ことばのほん」として、入門期の会話用のテキストが作られた。また、書写用のための「かきかた」の本も作られた。どれも、現地の日本語教師の意見も取り入れ、よくできていた。然し、なおよくするため、活発な意見の交換がなされた。この会議は、以下、熱心に、3日間つづけて行われた。

19日(火) 同上検討会(第2日)

20日(水) 同上検討会(第3日)

3日間の会議で、ある程度の修正も行われた。然し、梅垣先生の周到な企画と、綿密な手順による原案はすばらしく、ごく部分的な修正であった。これで、事業団として、はじめて行った日本語教育のカリキュラムの作成——都市型、奥地型の二つの原案は、立派にできあがったのである。新しい教科書・テキストの作成など、これからの具体化の、一日も早いことを願ってやまない。

以下、次の日程により、私と清水先生は帰国した。

21日(木) 記録整理。

22日(金) 記録整理。

23日(土) 移動、サンタクルス空港→リマ空港のりかえ。

24日(日) リマ空港発。

25日(月) 成田空港着。

む す び

きびしい日程の中で、うれしかったのは、現地の先生方の日本語教育への高い熱意にふれたことだった。前回の巡回のときも感じたことだったが、それを、あらためて確認したことは、何よりの収穫であった。これは、現地における日系子弟の日本語教育は、単なる外国語教育ではない、それにプラスアルファの教育だからである。そのプラスアルファは、何であろうか。ブラジルの日系人は、既に安定し、いよいよの発展が期待されている。その日系人にとって、「日本語」は、まさに、夢と希望の活力を与える原動力に違いない。ブラジルの発展と共に、日本との「かけ橋」にも、「日本語」はなっている。日本語を消滅させてはならない。日本語は、いよいよ、強く、たくましく生きていってほしい。

そうした願いが、日本語の先生方の願いである。それが、大変困難な条件下でも、高い熱意となって日本語教育を推進しているのだ。

もう一つ、うれしいことは、事業団として、日本語教育のカリキュラムが検討され、新しい日本語の教科書作成の第一歩が、しっかり踏み出されたことだ。画期的なことであり、その出現は、すべての日語教師待望のものである。

それにしても、現地の先生方に、たいへんお世話になり、お礼の言葉もない。また、国際協力事業団各支部長、職員の方にも、何かにつけてお世話になった。厚く御礼申しあげ、むすびとする次第である。

2. 北 伯

(清 水 武 二)

(1) 北伯各地区日本語校の日語教育の現況と改善点

(イ) パイヤ地区研修会

1. 児童画の指導について (児童の画を見ながら)

(1) 児童の創作性を伸ばす

さし絵やまんがの写し、模写はさけない。

(2) 色彩感覚を豊かに

(3) 性格に見て、描写する力を養う。

(細密画等)

(4) むり絵をさける

(5) 大人が手伝わない

2. 各校の状況及び問題点

○ J. K日本語学校

児 童 数 55名。教師、5名。

教 科 書 光村

授 業 形 態 土曜日・4時間、日曜日・4時間

・ 問 題 点 教科書不足、1冊を6年も使っている。

○ タペロア日本語学校

児 童 数 10名。教師、2名。

教 科 書 光村、わたしのにほんご

授 業 形 態 日曜日・2時間

・ 問 題 点 昨年度まで教師は無報酬で奉仕していたが今年度から謝礼を出すとのこと。

○ イツベラ日本語学校

児 童 数 30名。教師4名。

教 科 書 光村、コロニア版、日本語。

授 業 形 態 月1回、第二日曜、1時～5時(4時間)、他に音楽や学芸会の練習

・ 問 題 点 月1回の授業にかかわらず、日本語の程度も大変高く、先生方の努力が実っている。

特に音楽に力を入れ器楽演奏も立派で、朗読・演劇を通して、日本語教育を行っている。テキストに苦勞している。

○ ウナ日本語学校

児 童 数 30名。教師、2名。
教 科 書 コロニア版、日本、光村
授 業 形 態 日曜・2時間
問 題 点 教科書不足

○ ティッシュラフレイタス日本語学校

児 童 数 50名。教師、1名。
テ キ ス ト にっぽん語（会話の本）、絵カード
授 業 形 態 週3回、1日1時間（6組、3学年又は4学年複式）
問 題 点 6学年50名の児童を1人の先生が週3回ずつの授業を担当し、かなり過労であると思うが、父母の協力もあり、補っている。学級編成のしかたがむずかしい。

○ ポストダマツタ日本語学校

児 童 数 21名。教師、1名。
テ キ ス ト ブラジル版、日本語。
授 業 形 態 週3日（月、水、金）1時間半～2時間。1984年4月に開校、その以前は個人宅で教えていた。

○ レシーフェ日本語学校

児 童 数 29名。教師、3名。
テ キ ス ト 光村、プリント
授 業 形 態 土曜午前中、年末に林間学校
問 題 点 集中的に教えると効果があるのだが、経済的に困難である。

(ロ) 第二トメアス地区

日語教育の現状と問題点

2日間にわたる授業参観、ならびに私の授業を通して、この地域においては 日常家庭で、日本語を使っている所が多く、いわゆる農村型の日本語教育が可能である。実際山根先生は、読解指導を主に日本の民話等を取りあげて、日本の文化、伝承等を理解させるよう努力していた。父母懇談会で各家庭の実情を聞いたところ、殆どが日本語を使っているが、友達とはブラジル語、兄弟でもけんかをする時はブラジル語になるというので、次第にブラジル語に移行するものと考えられる。

問題点としては、第一にこの地区に電気が入っていないことで、電気器具（オルガン、ラジオ、カセット他）が一切使えず、教材の多様化ができない。そのため教師が、教材教具の作成利用に苦勞している。又第一トメアスからの道路も悪く、連絡も簡単にはできない状況である。せめて、日本の児童図書等抱負に揃えてやりたい。

第一トマス地区

本校ならびにブレウ分校で父母懇談会を行ったが家庭でも次第にブラジル語が主となり、都市型に移行しつつある。

日本語教育について関心は高く、その重要性について、理解は深いが、実質的に協力面では未だしの感がある。

例えば、教師の給料にしても、週2日ということもあるが、僅か月6万Cr（日本円で4,000円）である。殆どが教師のボランティアにたよるという結果になっている。しかも、日本語学校に対する要求はなかなか厳しく先生方も苦勞も大きい。

メレン地区

日系人子弟の外国語に対する関心は、以前は英語優先であったが、アメリカその他欧米への留学がなかなか困難であり、日本留学の道が開けているということで、日本語が第一外国語となっている。

日系人の日本語学習の動機は日本へ留学したいということで、ブラジル人は日本の商社に勤めたいとか、日本人の客がふえたからということで、ブラジル人成人の日本語熱が高まっている。

日本語学校の生徒もここ10年位の間に2倍以上に増加し、その大部分が日本語好きと言っている。

各学校の使用テキストは、90%が日本の国語教科書で、およそ小学校3年程度までが80%をしめている。

アバエテツーバ地区について

この地区はJICA直営移住地ではないため、日本語教育も1977年以後度々行われたが、中断されていた。1984年4月から日本人会の力で日本語学校も建設され、本格的に開校された。地域の日本語教育についての熱意は大変高い。

現在、生徒教 初級、10人、中級、12人、上級、18人、計40人。

教師 3人（谷本ミサヲ、中川信子、橋ロジズ）

日本人会長、葛尾。日本語学校長、松田弘久。

問題点

- ・ 近くにアルブラス工場（日本出資アルミニウム工場）ができた為、ブラジル人子弟及び成人が日本語を習いたいという希望がある。地域の要望をいれたいと思うがその方法について考えている。

日本領事館やJICAで考えて貰えないだろうか。

- ・ 教科書がなくて困っている。

ブラジルコロニヤ版を買う予定だが高価なので困っている。1冊が労働者給料の4日分に当る。国語と音楽の本が欲しい。

- ・ 事業団移住地でないので、教科書、教材等の支給が少ない（オルガンは貰った）。
- ・ 事業団、領事館、日伯協会その他へ行事の招待状を出しても誰も来てくれない。
- ・ 公民館建設補助を7年も要望しているができない。

サンタレン地区について

サンタレン日本語学校

教室	旧日本人会館を四つに仕切って立派な教室として使用している。		
児童	第1クラス、10人、第2クラス、13人	} 計44名	
	第3クラス、12人、第4クラス、9人		
教師	3人 梶山明夫、西村 隆、岩間あつ子。		
授業	日曜 8時～11時		
教科書	光村 2年以上の本がない。		
日本人会	会長 瀬尾 誠次	会員 64名。	
	副会長 河野 昭人		
父兄会	会長 森永 俊	会員 18名。	

モンテアレグレ日本語学校

教室	文化協会
生徒	14名（7才～11才）
教師	大竹紀子
	補助 大槻京子、加藤ナツ子

問題点

- ・ 教材・教科書不足
- ・ 教師の待遇改善（教師の奉仕に頼っている。）

ベレン地区

日本語学校運営団体代表者懇談会

出席者 甲斐領事 飯塚JAMIC業務課長、各団体代表者20名。

問題点

- ・ イガラッペアス
- ・ キリスト教会日本語校
- ・ ガ マ
- ・ コ ケ イ ロ
- ・ 電気がないので指導に支障がある。
- ・ 財源不足
- ・ テキストの選択
- ・ 日本語修得程度の差が大きい
- ・ 情操教育を進めたい
- ・ 生徒数増加（170名）による教室、校具の不足

- ・福音教会
 - ・ブラジル人子弟の入学が多くなり、指導法にポルトガルが必要になってくる。
 - ・片親がブラジル人の場合が多くなり、家庭学習ができず進歩が遅い。
- ・サンアントニオ
 - ・日本についての研修会を開いて欲しい（日本を離れて年数がたち実情がわからない）
 - ・教材不足
 - ・教師の契約や退職金等について
 - ・中学以上の日本語教育を考えて貰いたい
 - ・教材開発を進めて欲しい
 - ・全員参加するキャンプをしたらどうか
- ・サントイサベル
 - ・体育館を教室に使っているので音響が悪い
- ・モエマ
 - ・教室がこわれても補修ができない
 - ・電気がない
- ・サントイサベル
 - ・先生の後継者がいない
- ・トメアス
 - ・経費の問題
- ・カスタニャル
 - ・経費を受益者負担を多くすることにし、昨年の5倍にしたため、生徒が減ることが考えられる。
 - ・教材を年度初めに買う資金がない
 - ・家庭で日本語を話さない層がふえている
 - ・先生が定着しない。収入が少ないので日本語教師を職業としてはできない。

以上の問題点に対して、領事館、AICAの立場での助言があり、日伯教会理事から

今年度、日本語教育に重点を置き

- ・日本語教育高等科を設けたい
- ・各校父兄会の連合体組織を作り、アマゾンに適した教材の開発を考えている

更に要望として

- ・次代の教師養成を考えて欲しい
- ・日本研修の資格が厳しすぎる。限定しないで研修させて欲しい。
- ・日本語教育はコロナの問題だけでなく、日本の問題である。日本からの助成を多くして欲しい。
- ・日本語指導教師をベレンに長期滞在させて欲しい。
- ・開発青年制度の青年を駐在させて欲しい。

マナウス地区について

マナウス日本語学校

教室	西アマゾンニヤ日伯協会内、日本語学校
教師	7名
校長	小茄子川力雄氏
生徒	7クラス、141名
テキスト	光村、国際学友会編

各学級の授業を参観させて貰った。日本語修得の程度によってクラス編成がされ、特別クラスには、純ブラジル人が3人、成人も1人入っていた。

それぞれの担任が、熱意を持ちいろいろふうして、程度に応じた指導を懇切に行っていた。昨年も感じたが、当地の日本人学校長清藤氏の夫人が、日本語学校の先生をしておられたのに感動した。各地でなかなか移住者と日本から派遣された出張者との間がしっくりいかなかったり、日本語学校の先生が、移住者については関心がなかったりするが、ベレン地区及びマナウス地区では、この点について理解があるようだ。

ベレン日本語学校、星校長が、地区のコーラスの指導をしたり、マナウス日本語学校、清藤校長が地区のゲートボールの指導をしたり、清藤夫人が日本語学校の教師を引き受けたり、地区との融合がうまくいっているよい例である。又、日本で教師の経験のある清藤夫人が、日本語学校で指導されることは、現地の日本語教育の発展の為にも大いに役だっていることと思う。

リオ、ミナス、フラジリヤ日語教師合同研修会

会場である日新学寮は、リオ地区に新築された学生寮で、施設も立派で各室に冷房施設もあり、会議室、食堂等整っていた。

三地区の先生方46名が、なかには前日から泊まりこんで大変熱心に参加され、特に二世の若い先生の参加が力強かった。

各地区の概要を聞くと、地域的に違いはあるが、共通する問題点としては

1. 教師不足

- ・教師の年齢が高令化している
- ・二世教師の養成が急がれる

2. 教材不足

- ・各校でいろいろなテキストを苦勞して開発し、使用しているが、決定的なものはなく、困っている。

3. 生徒が継続しない

- ・ある年令まででやめてしまい、完全に修得する迄に至らず、ブラジルの学校の

都合や家業のため、退学してしまう。

4. 他校と連絡がない。

・地理的に離れていたり、組織の関係で他校と連絡がとれないので、今回のような合同研修会で、他校のようすがわかりありがたかった。

5. 複式の指導、ブラジル人の日語教育等

今回の合同研修会に寄せる、先生方の期待は大きく、こうした研究会で各校と横の連絡がとれ、リオ連邦大学の平島客員教授の講義を聞いたり、指導教師の指導を受けること喜んでおられた。

22日午後と夜、23日早朝の3回の講義を終え、閉講式には感謝のことばと記念品をいただき名残を惜しんでサンパウロへ移動した。

カンピーナス地区 研修会出席者 15名

研究会に出席された、先生方の半数は、成人向の日語校の先生で、他の方も児童と成人の、両方を指導している方が多かった。

日本語教育も、成人対象の場合と、児童生徒向の指導とでは、指導法その他で大きな違いがあり、ここではどちらに焦点をしぼるか、とまどいを感じた。この地区では日系企業の進出と共に、日系成人及びブラジル人成人が、日本語修得の希望が多く、成人対象の語学校が発展したと思われる。

児童対象と、成人対象では共通点もあるが、児童対象にはゲームその他をとり入れ、興味を持たせ、成人向きには文法等、理論的な要素が強くなり、別々の研修会が必要なのではないか。

私は、児童生徒向の指導を中心に講習を行ない文法的な内容も含めたが今後は一考を要する。

ジャカレ地区 研修会出席者 10名他に父兄

この地区の日語校は生徒数が多く

ジャカレ校 140名。 イタベチ校 111名。

その他の学校でもかなり多く、中にはブラジル人がかなり通学している。

ABC地区

サンベルナンド日語校 校長 河野八千代先生、他2名

生徒数 220人

4部交替制

サントアンドレ学習館

生徒数 500人

校長 岡崎 完先生、教師 10名

幼稚園から高校まで、規模が大きい

サンパウロ市内

アニョンゲーラ日語校

ここは森脇先生を中心とした指導者が、研究的に指導をされており、組織、クラス編成等も、緻密プランのもとになされ、更に教材、教具の作成、整理、活用も整然と進められ、私達にとっても参考になることが多かった。

松柏学園

河村校長の長年の経験から、信念をもって日本語教育にあたり、スタッフも、松柏学園の卒業生で固め、堅実な指導をしている。

サンパウロ市内及び近郊日語校について

サンパウロ周辺では日本語教育について、日系人の理解が深く、北伯地域と違い、授業料もかなりの高額を拠出するので、日本語教育が事業として成立っている。それだけに内容も指導技術も、高度なものが要求される。又、最近部人が、日本語に対して、関心を持ち、近郊工業都市では、必要性から日本語学校に、多数通学しているので、この指導にも一考を要する。

(2) 日本語教材（集中管理方式）の利用状況について

ベレン地区において、集中管理方式による日本語教材の活用について見せて貰った。

教材は 謄写ファックス 輪 転 機
邦文タイプライター 製 本 機
V. T. R 等で

汎アマゾニヤ日伯協会の一室に設置されてあった。

活用の方法としては、印刷機、製本機により、現地教科書の複製を作り、各校に配布していた。又、V, T, Rは二台を設置し、常時視聴とダビングができるようになっていた。

これらの活用については、次の問題点がある。

1. 印刷その他の操作を現在、日伯協会の職員に依頼しており、専門の担当者がいないことである。

すべての日語教師が、その学校の必要に応じて、器機の活用ができれば最善であるが、現在は、そこまではできない状態である。

その理由は、

- (1) 資料の選択が困難である。
- (2) 地理的に遠隔地からの利用がむずかしい
- (3) 機械の操作に慣れていない（破損する恐れがある。）

2. 現在の活用方法としては、日語教育研究会の中心の先生が判断して、教材をプリント

し、各校に配布することであるが、地域によっては、独自の教材がそれぞれあると思う。

3. 謄写ファックス、輪転機は枚数の多いものの印刷には適しているが、少数の印刷には適さない。生徒数の少ない学校には、少数を簡単に印刷できるゼロロックタイプの印刷機が欲しい。出来れば各校に1台あれば、他は殆ど不用になる状態になると思う。

4. V. T. Rについて

V. T. Rは、日本語教育に今後大いに活用されるべき機械で期待も大きい。

然し、機械そのものの移動ができない（道が悪く破損の恐れがある）ので、各校に機械を設置しないと利用できない。更に、ベレン地区では、現在9校も電気がない学校がある。電灯線の引込み、或いは、簡易発電装置の設置がその以前の問題である。

更に発展すれば、各学校行事等の記録の為に、ビデオカメラがあるといいし、新教材の制作にも利用できる。

5. その他の教材

教科書、指導書、参考書、事典等、各種の教材があるが、ベレン地区の日語教師の殆どが、副業として教師をしているので、これらの教材を選択し、複写し、教材として活用するだけの時間的余裕が、果してあるだろうか疑問である。

これを活用し、機器が能力を発揮するためには、

1. 長期指導教師の滞在と、
2. 機器の操作に当る職員、例えば、開発青年の派遣等が必要であろう。

JICA